学校番号	３００７

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	数 B706 「高校数学 B」　（実教出版）						
副教材等	「ステップノート数学 B」　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業用ノートは板書をただ写すのではなく、出題された問題を自分で解きましょう。その際考えた経過や途中式を必ず書きましょう。復習する際に非常に役立ちます。
・定期考査前に要点確認のために対策プリント等を行います。考査本番で得点するためにしっかりと取り組みましょう。
・課題については期日を意識し、計画を立てて取り組み必ず提出しましょう。
・レポート課題にも積極的に挑戦してみましょう。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2) 離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学Ｂにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることができる。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようしている。 また，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1章数列	1節　数列とその和 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等比数列	a:・数列の意味を理解し，一般項から初項や第5項を求めたり，簡単な規則性を持つ数列からその規則性を見つけて一般項を求めたりすることができる。・等差数列と等比数列について理解し，一般項や和を求めることができる。・自然数の和を求めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） b:・数列の規則性について考察できる。・与えられた2つの項から，等差数列と等比数列の一般項を求めることができる。・等差数列の項数を求めてから，その和を求めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） c:・身の回りの数の並びに規則性があるか調べ，数列として一般項を用いて表そうとしている。・一般項を用いて数列を表すことのよさをとらえようとしている。 （発問評価・課題提出）	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出

	1章 数列	2節　いろいろな数列 1. 和を表す記号 2. 階差数列 3節　漸化式と数学的帰納法 1. 漸化式 2. 数学的帰納法	a:・和を表す記号Σの意味を理解し，Σを用いた数列の和の式とΣを用いない数列の和の式を相互に変換できる。Σを用いて表された自然数の和や自然数の2乗の和を計算することができる。Σの性質や，自然数の和，自然数の 2 乗の和を利用して，いろいろな数列の和を求めることができる。階差数列を利用して，もとの数列の一般項を求めることができる。・漸化式の意味を理解し，等差数列と等比数列を初項の値と漸化式で表すことができる。・初項の値と漸化式から等差数列と等比数列の一般項を求めることができる。・数学的帰納法の意味やそれを用いた証明の方法を理解している。 （発問評価・課題提出・定期考査） b:・各項が積の形で表された数列の和を，Σの性質を利用して求めることができる。・階差数列ともとの数列の一般項との関係について考察することができる。・初項の値と $a_{n+1}=pa_n+q$ の形で表された漸化式から一般項を求めることができる。 ・数学的帰納法を用いて証明を行うことができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） c:・Σの性質や，自然数の和，自然数の2乗の和を利用して，いろいろな数列の和を求めようとしている。・階差数列を利用して，もとの数列の一般項を求めようとしている。 ・数列の隣り合う2つの項の間の関係について考えようとしている。 ・数学的帰納法を用いて証明した命題について，他にも証明方法があるか考え比較しようとしている。 （発問評価・課題提出）	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出

2学期	2章 統計的な推測	1節 確率変数と確率分布 1. 確率とその基本性質 2. 確率変数と確率分布 3. 二項分布 2節 正規分布 1. 確率密度関数 2. 正規分布 3. 二項分布と正規分布	a:・確率の基本的な法則を理解し，排反事象の確率を求めたり，余事象を利用して確率を求めたりすることができる。・確率変数の確率分布を，表に表すことができる。・確率変数の平均・分散・標準偏差を求めることができる。・二項分布の意味を理解している。・二項分布にしたがう確率変数の平均・分散・標準偏差を求めることができる。・与えられた確率密度関数から，確率変数が特定の範囲となる確率を求めることができる。・正規分布表を用いて，標準正規分布にしたがう確率変数が，特定の範囲となる確率を求めることができる。・正規分布にしたがう確率変数を標準化することができる。・二項分布と正規分布の関連について理解し，二項分布を正規分布に近似することができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） b:・組合せを利用して確率変数の平均を求めることができる。・二項分布にしたがう確率変数の確率分布を表に表すことができる。 ・身の回りのデータを，正規分布を用いて考察し，特定の範囲にある個数などを求めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） c:・身の回りのデータで，確率変数として考えられるものを見つけ，その平均・分散・標準偏差を調べ，データの特徴を把握しようとしている。 ・身の回りのデータで，二項分布を利用して考えようとしている。 ・身の回りのデータで，正規分布にしたがう確率変数があるか調べ，データの特徴を把握しようとしている。 ・二項分布が正規分布に近似できることを利用して，いろいろな確率を求めようとしている。 （発問評価・課題提出）	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出

	2章 統計的な推測	3節 統計的な推測 1. 母集団と標本 2. 標本平均の分布 3. 母平均の推定 4. 仮説検定	a:・全数調査と標本調査の違いを理解している。・無作為抽出について理解し，乱数表や乱数さいの性質や使い方を身に付け，乱数表を用いて無作為抽出ができる。・母平均と母標準偏差および標本の大きさから，標本平均の平均と標準偏差を求めることができる。・標本平均の分布の特徴を理解している。・信頼区間の意味を理解している。・仮説検定の意味を理解し，二項分布と正規分布を利用して仮説検定を行うことができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） b:・標本平均が特定の範囲となる確率を求めることができる。 ・標本の大きさと標本平均，母標準偏差から，母平均に対する信頼度95％の信頼区間を求めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） c:・全数調査や標本調査にはどのようなものがあるか調べようとしている。・信頼度の割合によって信頼区間がどのように変わるか調べようとしている。・身の回りの事象で，仮説検定の考えを用いた例を調べようとしている。 （発問評価・課題提出）	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出

3学期	3章 数学と社会生活	1節 図形と測定 1. 平面をしきつめる 2. 地図を読もう 3. 土地の面積と測量 2節 経済と数学 1. 単利法の仕組み 2. 複利法の仕組み 3. ローンの返済 3節 社会生活における分析 1. 移動平均 2. 回帰直線 3. 私たちの生活と問題解	a:・図形が平面をしきつめることができるか調べることができ，1種類で平面をしきつめることができる多角形は，正三角形，正方形，正六角形の 3 つであることを理解している。・地図の縮尺の意味を理解し，地図上の長さと縮尺から実際の長さを求めることができる。・ヘロンの公式を用いて，三角形の面積を求めることができる。・座標を用いて，四角形の面積を求めることができる。・単利法の仕組みを理解し，単利法による元利合計の計算ができる。・複利法の仕組みを理解し，複利法による元利合計の計算ができる。・ローンの返済では，期間が長いほど利子が増え，返済の合計金額が大きくなることを理解している。・均等分割払いの仕組みを理解し，均等分割払いで返済するときの，毎回の返済金額を求めることができる。・移動平均の意味を理解し，移動平均を求めることができる。・回帰直線の意味を理解し，回帰直線の方程式を求めることができる。・数学を活用して社会生活における問題を解決する意義を理解している。 （発問評価・課題提出・定期考査） b:・2 種類の正多角形でしきつめられた図柄について考察できる。・2 地点間の直線距離と実際の経路の距離の関係について，散布図をつくったり，相関関係を調べたりできる。・座標を用いた多角形の面積の求め方について考察できる。・単利法と複利法の仕組みについて理解し，それぞれの特徴を考察できる。・均等分割払いについて，返済期間や利率と，返済金額との関係について考察できる。・移動平均や回帰直線の方程式を用いて，データの傾向を考察することができる。・問題解決の過程や結果について考察することができる。	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出・定期考査	発問評価・課題提出

			（発問評価・課題提出・定期考査） c：・身の回りから正多角形の図柄を見つけようとしている。・地図を用いて，自宅から学校などのように身近な距離を求めようとしている。・実際の測量がどのように行われているか調べようとしている。・金額や利率，返済回数を変えて，いろいろな場合のローンの返済金額を求めようとしている。・身の回りのローンについて，利率や返済方法などの特徴を調べようとしている。・表計算ソフトを用いて，身近なデータの移動平均や回帰直線の方程式を求め，データの傾向を調べて予測しようとしたりしている。・身の回りのことがらについて，数学を活用して問題解決しようとしている。 （発問評価・課題提出）			

※　表中の観点について

a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度